



鶴見幸代(つるみさちよ) 作曲家

1999年東京藝術大学音楽学部作曲科卒業。現代音楽、映画音楽、ポップス音楽、民謡、子供の為の音楽など幅は広く、独特で新鮮な音楽性が国内外で高く評価されている。2003年には横浜市芸術文化振興財団委嘱作品「釀鹿」を発表。作曲家グループ「クロノイ・プロトイ」、方法芸術を实践する「方法マン」メンバー。http://tsulu.net



樺山智子(もみやまともこ) 作曲家

スタンフォード大学音楽学部、及び人間生物学部卒。ニューヨークでのアーティスト・イン・レジデンス、タイとインドネシアでのフェローシップなど、国内外で実験的な音楽活動を展開。様々な分野の表現者との対話を通じて、既存の枠組みを超えて社会に働きかける芸術の創出を目指す。アート・アクション・ユニット「マイノリマジョリテ・トラベル」代表 (www.mimajo.net)。



三橋圭介(みつはしけいすけ) 音楽評論家

神奈川県六角橋在住。武蔵野音楽大学音楽学学科大学院修了。クラシックから現代音楽、ジャズ、民俗音楽など幅広く執筆。共著に「作曲の20世紀II」(音楽之友社)、「ベートーヴェン」(学研)、「ザ・ベスト・オブ・ジャズ〜101人のこの一枚」(音楽出版)などがある。詩人の松井茂とメール・アート「五日毎日常発表」を主宰(第6期終了)。八巻美恵、高橋悠治と「水牛」(http://www.suigyuu.com/)を主宰。玉川大学非常勤講師。



阪本剛二郎(さかもとごうじろう) 三味線

1978年横浜生れ。東京藝術大学邦楽科修了後、三味線方として長唄東音会同人となり、全国の劇場や放送などに出演中。また、横浜市中区にて、門弟の指導にもあたっている。(長唄寿々会)長唄協会会員、横浜邦楽協会会員。



神田佳子(かんだよしこ) 打楽器

横浜生れ。東京藝術大学卒業及び同大学院修了。現代音楽を軸に作曲やプロデュースも手掛けるマルチプレイヤー。正倉院復元楽器の演奏からジャズピアノとのデュオ「TANAKANDA」の活動も行う。http://www.yoshiko-kanda.com/



今込治(いまごめおさむ) トロンボーン

2004年東京藝術大学卒業。現在トロンボーンカルテットクラール、チャンキトルネエド、東京トロンボーンアーティストメンバー。聖徳大学附属高等学校音楽科非常勤講師。これまでにトロンボーンを栗田雅勝、道明広和の各氏に師事。



ayako (HaLo) シンガーソングライター

音楽家/写真家として世界各地の音楽家たちとのコラボレーションにより色を音で表す試みのアルバム"blue"と"yellow"をHaLo名義でリリース。またCMやドキュメンタリーなどで多数ナレーションも手がけている。http://www.halo-inc.net



齋藤徹(さいとうてつ) コントラバス

舞踊・演劇・美術・映像・書・邦楽・雅楽・能楽・タンゴ・ジャズ・即興・韓国伝統文化・アジアのシャーマニズムなど積極的に交流。神奈川フィルと自作演奏。海外のコントラバス祭に多く出演。自主レーベルTravessia発足。http://tetsu-saitoh.com/



末永千湖(すえながちこ) ヴァイオリン

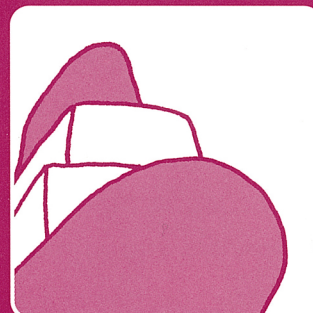
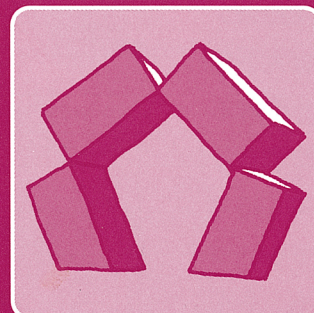
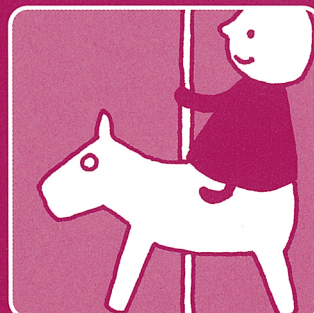
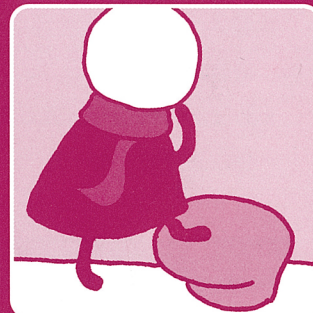
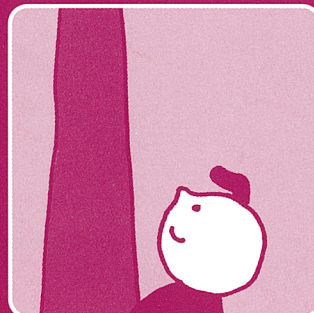
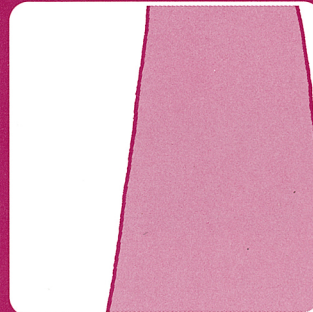
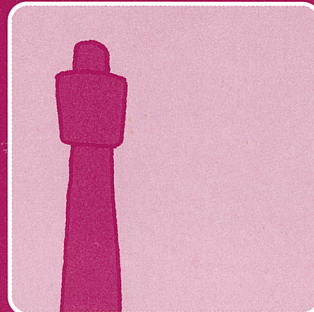
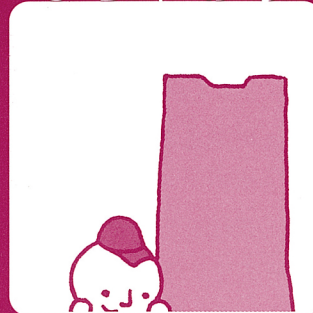
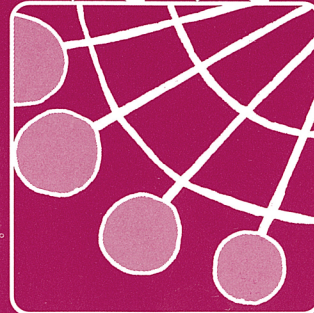
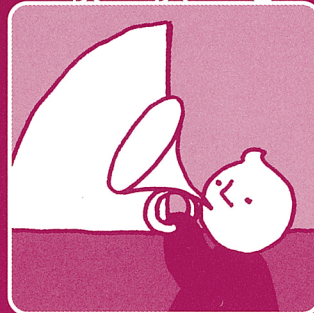
2001年東京藝術大学大学院修士課程修了。96,01年Pacific Music Festival出演。03年新国立劇場主催「舞姫と牧神たちの午後」でモダンダンスとのコラボレーションに挑んだ。現在、ソロを始め、室内楽、オーケストラのコンサートに多数出演するほか、レコーディングにも携わっている。また「J-POWER」による派遣で施設訪問演奏会を行っている。小野アンナ記念会会員。

はまみっこくす

横浜を

マゼマゼ

しちやおう



2007年
3月3日(土)
19:00 開演

横浜みなとみらいホール
小ホール

第一部：ワークショップ参加者によるグループ創作作品

鶴見幸代グループ

「みなとみらいからおきなわへ」

- ・ みなと伝説
- ・ 地球低音化警報
- ・ 船出
- ・ 芝罘い
- ・ カモメパンと小舟
- ・ ワカップおじいさん
- ・ ミックス譜雷おいしいな
- ・ おきなわ温泉
- ・ 息止め、砂救い

監修：鶴見幸代

作曲・振付・テキスト・録音・映像・写真：
ayako(HaLo)、今込治、加藤真砂美、佐藤隆介、
鶴見幸代、増田侑美、山下絵里香

演奏：

ayako(HaLo)、今込治、加藤真砂美、神田佳子、
齋藤徹、阪本剛二郎、佐藤隆介、末永千湖、
鶴見幸代、増田侑美、山下絵里香

ワークショップ参加者：

加藤真砂美、佐藤隆介、増田侑美、山下絵里香

三橋圭介グループ

「いろんな世界がここにある」

- ・ 導入～いろんな世界がここにある
- ・ 枯れたイメージ
- ・ あなたの代わりは誰もできない
- ・ 急に音がなくなった

監修：三橋圭介

作詩・作曲・演奏・朗読・ダンス・映像：
ayako(HaLo)、今込治、坂本ひろみ、末永千湖、
長山誠、増田澄、三橋圭介、吉田彩乃

ワークショップ参加者：

坂本ひろみ、長山誠、増田澄、吉田彩乃

縦山智子グループ

「みなとみらいっていうけどね、コンクリートで固めたものがほんとに100年後、みんなが未来と呼べるようなものなのかな？消費するだけの使い捨てじゃなくってね。朽ち果てるまで使えばいい、でもいつかそこから芽がでるような、そんな有機的な、まちにしたいって。」

監修：縦山智子

作曲・演出・演奏：
内山和重、遠藤響、縦山智子、平田絵里菜、
横山太加子

ワークショップ参加者：

内山和重、遠藤響、平田絵里菜、横山太加子

～ 休憩 ～

第二部：鶴見幸代、縦山智子によるリミックス新作

「はまみっくす」とは

リミックス、それはすでにあるものを混ぜ合わせ、新しくすること。「はまみっくす」は、参加者の色々な視点を通して見えてくる横浜を、リミックスという手法を用い、多角的な音楽として舞台に浮かび上がらせる試みです。参加者はまず、レジデンス・アーティストの鶴見幸代、三橋圭介、縦山智子をリーダーに3つのグループに分かれてフィールドワークと創作ワークショップを行いました。コンサートの第一部はこのグループ作業による創作作品です。そしてさらに、これらのグループ作品を素材としてリミックスした新曲を、コンサート第二部で世界初演いたします。

グループ作品について

「ゆるやかな開放と羨望」、「海と船」をテーマに、録音や写真を撮りながら、みなとみらいをまったりとフィールドワーク。あたえられた時間は半日。低予算と体力と気温を考慮し、あくせくせずに短時間でどれだけみなとみらいに憧れをいただけるか。万葉倶楽部(温泉)に入りたい気持ちを盛り上げながら見るだけ、海沿いの寒い風にさらされてかじかんで、赤レンガ倉庫前の広場で昼食を食べながら汽笛の練習をしたり、大栈橋で小人気分になってかけっこして、転んで芝だらけになって、ひっそりたたずむ定食屋さん前でお腹をすかせ、横浜マリタイムミュージアムで疑似航海練習をして帰ってきました。創作ワークショップでは、まず、フィールドワークで思い出に残ったことや憧れをピックアップ。その場所の録音を聴いて音真似をしたり、イメージを即興演奏しながら音楽や物語を作っていました。グループ作品は、そうして出来た一つのファンタジーです。

鶴見幸代

わたしたちのグループは赤レンガ倉庫、港の見える丘公園、ブリキのおもちゃ館、そして中華街を通り、寿町をフィールドワークした。天気の良い午前中に出発。最初は観光気分風景を切り抜き、音や言葉を拾い集めながら、中華街から一本道を隔てた寿町へ。そこは中華街の喧噪とは対照的に、静けさと緊張感にあふれていた。そして、最後にスタート地点のみなとみらいにたどり着いたとき、あの見慣れた風景はすこし違って見えた。だからなのか、明るく心がけた歌はどこか暗く沈み、言葉は影となり、強い日差しは濃い影を落して乱反射する。唯一、小学生の増田澄さんの「太陽と観覧車」の絵だけが明るく輝いて見える。

三橋圭介

芸術は、心が動かされる瞬間そのもの、そしてそれを感じる心にあります。自分の心が動く瞬間を大切に観察しながら横浜を感じる。そのためのフィールドワークでした。まずシーバスに乗って埋立地のみなとみらいから海に出航、そして海から山下公園に上陸。「赤い靴」研究者のおじいさんに歌の由来を詳しく聞いたり、中華街で生まれ育ったお兄さんに町の歴史を教えてもらったり、NPO「さなぎ達」大好きホームレスおじいさんに寿町を案内してもらったり。沢山の出会いから発見や気付きの瞬間を重ねた旅を経て再びみなとみらいに戻ってきたとき、それまでは聴こえていても聴いていなかった音が、聴こえてきました。ワークショップでは参加者それぞれの気付きの瞬間を共有し、対話を通じて形にしていきました。そうして生まれしてきた音楽は、私たちの旅の記憶です。

縦山智子